



畑作等除草剤

アージラン液剤



除草剤分類

18

農林水産省登録	第12006号
有効成分	アシュラム 37.0%
性状	黄褐色液体
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
有効年限	5年
包装	500mL × 20本 2L × 6本（北海道のみ）

特長

- ✓ イネ科から広葉雑草まで、オールマイティな除草剤！
一年生、多年生を問わず、広範囲の雑草にすぐれた除草効果を発揮します。

- ✓ 牧草地のギンギンなどもしっかり枯らします
本剤は茎葉部および根部から吸収され、地上部はもとより、地下部の生長点にも達するので多年生雑草の地下茎を枯死させます。

- ✓ 薬量選択性です
高薬量で使用すると難防除雑草のスギナ、セイタカアワダチソウ、ギンギン類やワラビなどの強害雑草を防除することが出来ます。特に葉の数が多く、また葉が大きい種類の雑草ほど薬剤を取り込む量が多く、高い除草効果を発揮します。

- ✓ 雑草発生後、茎葉処理による抑草期間は通常2～3ヶ月程度です
多年生雑草に対しては地下茎を枯殺するため極めて長い期間抑草します。

適用作物と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数又は 使用量	使用液量	使用方法	適用地帯	本剤およびア シュラムを含 む農薬の総使 用回数
ほうれんそう	―	一年生雑草	は種後～子葉 展開期	秋播き 600～800 ml/10a 春～初夏播き 800～1000 ml/10a 但し、芽出し 播きは800 ml/10a	100～ 200ℓ/10a	全面土壌散布	―	1回
しそ			生育期 (本葉2～3葉 期) 但し、収穫45 日前まで	500ml/10a	100ℓ/10a	雑草茎葉散布		
おかひじき			は種直後	600ml/10a	100～ 150ℓ/10a	全面土壌散布		
さとうきび 飼料用さとう きび		一年生雑草 多年生雑草	雑草生育期 但し、収穫30 日前まで	800～1000ml	150～ 200ℓ/10a	雑草茎葉散布 又は茎葉散布		3回以内
えごま (種子)		一年生雑草	展開葉4葉期 以降 但し、収穫45 日前まで (雑草発生初 期)	500ml/10a	100ℓ/10a	雑草茎葉散布		1回
桑		一年生雑草 キク科、タデ 科の多年生雑 草	桑発芽前又は 桑刈取直後	750ml/10a	100～ 150ℓ/10a	全面土壌散布		4回以内
		キク科、ヒル ガオ科、タデ 科の多年生雑 草	雑草生育期	30～50倍	1㎡当たり約 100ml	雑草茎葉散布 (局所処理)		
すぎ (下刈り)		ススキ	6月	20倍	300ml/株径 30cmの株	雑草茎葉散布		
		アレチノギ ク、カラム シ、シシウド 等の大型雑草	雑草発生期		60ℓ/10a			
		クズ	6～7月	10倍	50ℓ/10a			
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生雑草	雑草生育期	1000～2000 ml/10a	25～ 200ℓ/10a	植栽地を除く 樹木等の周辺 地に雑草茎葉 散布	3回以内	
		多年生広葉雑 草		2000～3000 ml/10a				
		多年生イネ科 雑草		3000～5000 ml/10a				
		クズ		5000ml/10a				
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草 キク科、タデ 科の多年生雑 草		1500～3000 ml/10a		雑草茎葉散布		
			秋期経年草地 のギンギン類 の栄養生長期 但し、最終採 草後	300～400 ml/10a			北海道	
			春期経年草地 のギンギン類 の栄養生長期 但し、採草14					

牧草	牧野、草地	ギシギシ類及びキク科の雑草	日前まで	200～300 ml/10a	80～ 100 ℓ /10a	雑草茎葉散布又は全面散布	1回	
			秋期新播草地のギシギシ類の栄養生長期但し、最終採草後					
			秋～春期（9～5月）ギシギシ類の展葉時期 但し、採草14日前まで	400～600 ml/10a				北海道を除く 全域
			早春～秋期（1～11月）ギシギシ類の展葉時期	50～80倍液とし雑草が十分ぬれる量	1株当り25ml又は1㎡当り100ml			
	牧野、草地（更新・造成）	ワラビ	ワラビ展葉期	1000～1500 ml/10a	80～ 100 ℓ /10a	雑草茎葉散布又は全面散布		—

※ 本内容は2025年4月23日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

一般的注意事項

- 雑草の発生程度により許容薬量内で使用量を増減すること。
- 本剤は吸収・移行性の高い薬剤であるが、局所散布及び群生地散布の場合には必要に応じて展着剤を加用し、よく付着するように十分散布すること。
- 本剤の局所散布または群生地散布は所定薬量内で雑草の茎葉部をねらって散布すること。
- 本剤の砂土での土壌処理は発芽前雑草に対して残効性が劣るので使用はさけること。
- 本剤はヒユ科、カヤツリグサ科雑草及びザクロソウ、ツユクサ、ギョウギシバに対して効果が劣るので、これらの雑草の優占ほ場での使用はさけること。
- 本剤は遅効性で、効果の現れるまでにかなりの時間を要し、散布時期が遅れると効果が劣るので、時期を失しないように散布すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

作物別注意事項

さとうきび及び飼料用さとうきびに使用する場合

- 雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないように均一に散布すること。
- 展着剤は使用しないこと。
- 本剤は雑草生育期（草丈15cm以下）に有効なので、時期を失しないように散布すること。
- 本剤の使用により、葉に一時的に黄化・白化が生じることがあるので、必ず所定薬量を守ること。

ほうれんそうに使用する場合（備考もお読みください）

- 決められた使用時期内で、雑草の発生前～発生始期に散布すること。

牧野・草地で使用する場合

- 雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないように均一に散布すること。
- 全面散布で薬量が多い場合には、牧草（オーチャードグラスなど）の茎葉部が一時的に黄化することがあるので必ず所定薬量を守ること。
- 夏期（7～8月中旬）のギシギシ類対象の全面散布は牧草に薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
- 散布後14日間の放牧及び採草は行わないこと。
- 北海道での秋期散布は最終採草後に行うこと。
- 局所散布した周辺の牧草は飼料にしないこと。

桑に使用する場合

- 全面散布の場合、桑葉のある時期は薬害を生じるので使用をさけ、桑の発芽前または夏（春）切り後に土壌表面に均一に散布すること。なお、部分的に多量に散布すると薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- 多年生雑草を主対象として雑草の生育期に局所散布する場合は、茎葉にかからないように十分注意して雑草の茎葉に散布すること。なお高濃度液散布のため、桑株の近くの土壌に薬液が多量に落下すると桑の根から吸収されて薬害を生じることがあるので、なるべく雑草の茎葉から薬液がしったり落ちたりすることのないように雑草の大きさや密度により散布液量を加減し、茎葉だけに付着するように散布すること。

造林地の下刈りに使用する場合

- 本剤がすぎにかかると薬害を生じることがあるので、なるべくかからないように注意して散布すること。
- 本剤が農作物にかかると、薬害を生じるので、農耕地の近くで散布する場合はなるべく風の弱い日に散布するなど薬液を飛散させないように十分注意すること。

畦畔に使用する場合

- のり面への散布はさけること。
- 稲などの農作物にかからないように圧力を下げた噴霧機などで十分注意して散布すること。
- 薬剤が水田に飛散、流入しないように散布すること。

公園、庭園等に使用する場合

- 本剤は石を汚染することがあるので、霊園、墓地等では使用しないこと。
- 散布薬液の飛散あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布すること。
- 水源池等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。

安全使用上の注意事項



- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

魚毒性等

この登録に係る使用方法では該当がない。

保管

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

備考

＊寒冷の地方で保管中に結晶が析出した場合は、常温条件下で静置し、全て溶かしてからご使用ください。(効果に影響はありません)

＊＊ほうれんそうに使用する場合は、次の注意を厳守願います。（薬害）

- ・ほうれんそうの播種後～出芽前まで、雑草の発生前～発生始期に、使用量を厳守してお使いください。
- ・高温時（最高気温25℃以上）では、薬害が生じるおそれがあるので、使用しないでください。
- ・施設栽培（ハウス、雨よけ、トンネル等）など高温となるような条件では薬害が出やすい傾向にありますので、使用しないでください。
- ・砂壌土、砂土では薬害を生じやすいので注意してください。
- ・新品種に使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。